

宝石の世界 その20

<トルマリン> その1

名前の由来

トルマリンの名前は、シンハラ語の混ざり合った石を意味するtura mali(トゥラマリ)が語源と言われています。電気石の名前の由来は、トルマリンが焦電体であるためです。焦電体とは、温度変化により電気が発生する性質を持つ物質のことです。普段は空気中のイオンにより中和されていますが温度が変化するとバランスが崩れて電気が発生します。その性質から昔、船乗り達にパイプの灰の掃除に利用されていたとの逸話があります。



多彩な宝石

鉱物としてのトルマリンは非常に大きなグループで現在33種類が確認されています。宝石では4種類、エルバイト、リディコタイト、ドラバイト、ウバイトがあります。この内、殆どの宝石品質トルマリンがエルバイトとリディコタイトに属します。複雑な構造を持つトルマリンは様々な色があることでも有名です。緑、青、赤、ピンク、黄色などの他に色が途中で変化するバイカラー、中心がピンクで外側が緑色のウォーターメロンなどがあります。この多彩な色はトルマリンの魅力の一つです。

ルベライト

ラテン語の「rubellus:赤みを帯びた」を語源とします。赤色の原因はマンガン(Mn)。そのためサファイアの色合いとは少し異なります。鮮やかな赤色の石もありますが、濃いピンク色も多数。もっと淡くなるとピンクトルマリンと呼ばれます。



インデゴライト

植物の「藍」やその染料を指すラテン語の「indicum」が語源。青の原因は鉄(Fe)。ただ、鉄は緑色や黄色も発色するため純粋な青色はトルマリンとしては比較的少ないです。



クロムトルマリン

19世紀末、ミャンマーのカレンニー丘陵で鮮やかな緑色の結晶が発見されました。エメラルドかと思われましたが後にトルマリンと鑑定されました。この石はエルバイトが多い宝石品質トルマリンの中では珍しいドラバイトやウバイトの成分を含む中間タイプ。着色原因は主にバナジウム(V)。しかし最初に命名された名前からそのままクロムトルマリンの名称が定着しました。

